

地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～ 「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ ～ 「第2回ケア・カフェきたそらち～認知症～」開催報告

オンライン

- ・日 時 令和4年2月18日(金) 18:00～19:58
- ・開催方法 オンライン(ZOOM)
- ・主 催 北空知地域医療介護確保推進協議会
- ・参加者 42名(事前申込者47名 欠席5名、当日受付0名)
(市町別:深川市25名、妹背牛町7名、秩父別町2名、北竜町3名、沼田町5名)
(職種別:歯科医師1名、薬剤師3名、看護職9名、介護支援専門員6名、社会福祉士4名、保健師3名、リハビリ職3名、歯科衛生士2名、介護福祉士3名、事務職5名、その他2名)
- ・目 的 北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係作りを構築する。



BGMとともにカフェ?風の背景動画を流してみました

事務局・参加者ともにオンラインにはかなり慣れてきたとは思いますが、昨年9月から久々の研修だったのでちょっと緊張しながらも、参加者皆さんのご協力でスムーズに人数や所属等の確認ができました。

参加者の氏名の変更も画面共有でスライドを流し、予めお願いしました(下)



いつかこのようなお菓子とお茶を飲みながら実施したいですね…。

総合司会は、
多職種合同研修企画小委員会
森田小委員会長です



「施設名」と「お名前」に変更してください



開会挨拶は、医療介護連携支援センター運営会議座長の米澤さんです。

社会福祉法人 幸鐘会 グループホーム
べにばらに勤務の及川さんから、
「認知症の親と家族の葛藤」として話題提供



- ・第2回研修会は、「認知症」をテーマに第1回に引き続きオンラインで開催しました。
- ・話題提供は、社会福祉法人 幸鐘会 グループホーム「べにばら」に勤務（案内時と勤務先が変更になりました）の及川さんから、実際に自身が体験した認知症の母親との関わりについてお話をいただきました。
- ・徐々に進行していく認知症の物盗られ妄想により、同居の父との関係悪化や、一番近くにいる介護者である自分と妻が、母の言動により周囲から誤解を受けるなどの辛い経験について、介護する家族の体験事例として話題を提供していただきました。
- ・夫が浮気し女性に着物などを渡しているとの被害妄想から箆箆に鎖を巻き付ける、入院先の病院では自分に子どもはいない、おむつ泥棒がいる、自分はおむつを使わないなどの虚言を兄弟に言うなどの問題行動が見られた。
- ・入院手続きを本人がして特別問題はなかったことなどから周囲は認知症とは思わず、及川さん夫婦がおかしなことを言っているという誤解を受けた。
- ・認知症は介護をする人が何年もつらい思いをするが、本人も苦しんでいること、もっと優しく接することができたのでは、という後悔があり、自身の経験を今後の介護に生かしていただきたいというお話がありました。



バアちゃんの世界



医師か母が認知症であることを告知される家族



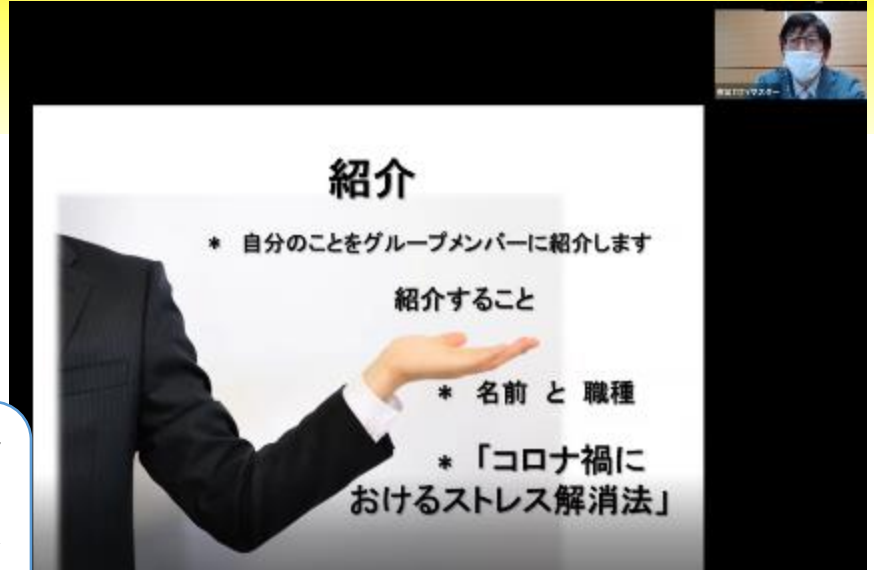
財布を嫁が盗んだのではないかと疑う母



監督 永野 敏 脚本 山田久美子 主演 船沢真由美 相楽 真 監督 尾井真純 (DOK) 監製 尾田 聡 出演 戸 亜 子



今回は、末岡さんがカフェマスターを務め、サブマスターは前回マスターだった永洞さんがサポートしてくれました。初めての担当でしたが、そつなくまもっていただきました



今回のテーマ

メモ紙をご用意ください。
(チラシのウラでもOK!)



- * どんどん言い(描い)ちゃいましょう!
- * 何を書いてもOK
 - 会話の内容
 - 思いついたこと
 - Chat2の時に役立ちます!

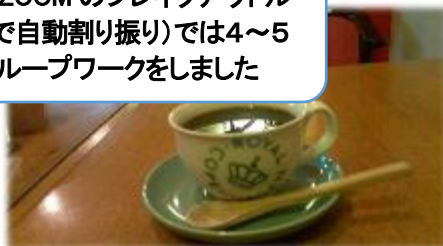


今回は、北海道ファーマライズ深川薬局から薬剤師、ふくしの窓口 居宅介護支援事業所などから初参加される方が6名いました

Chat 1

テーマについて 自由な話し合い

Chat1・2(ZOOMのブレイクアウトルーム機能で自動割り振り)では4~5人のグループワークをしました

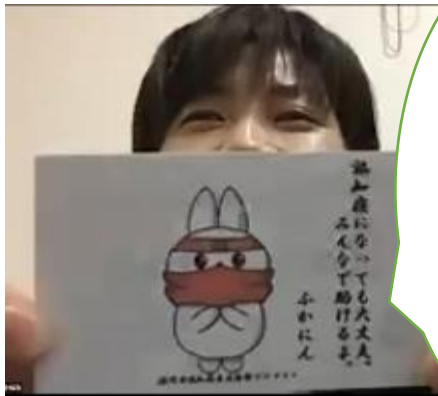


アンケートから

- ・改めて他の人と直接話すのは有意義だと感じた。楽しかったです。
- ・ZOOMではありましたが、色々な方と会話ができ、顔の見える関係を作れるのが良かったです。
- ・自分の職場以外の方と意見交換などが出来て参考になった。
- ・多職種との雑談はあまり機会がないから。
- ・考え方が共有できました。
- ・高齢の親がいる身では明日は我が身と思いながら聞いていた。
- ・実際に認知症の方と接するときが多々あり、対応に悩むことも。今回の研修会では実体験に基づく話が多く、自分の引き出しが増えたことが非常に有意義でした。
- ・認知症患者や家族との関わりで疑問なこともあり、グループワークで貴重なことを聞けました。認知症の方へ優しくゆっくり話を聞くことを心がけていきます。
- ・一番身近な介護者がつらい思いをするという言葉が刺さりました。私もそんな家族さん達の支えになればと思いました。
- ・ユマニチュードを教えて頂き大変勉強になった。
- ・自分の家族が認知症になった時、受け入れる事ができるのか考えさせられる内容でした。1人で抱え込まずに周りに相談する事、4つの柱で認知症の方の目線にたてる様に、これからも勉強していきたいと思いました。

- ・歯科医師からは入院治療が難しいので日帰り治療をするように工夫している、入れ歯の管理が難しいのでなるべく使わないような食事を支援しているとの意見がありました。

東ヶ丘病院 疋田さん



深川市役所 高齢者支援課
小鍛冶さん

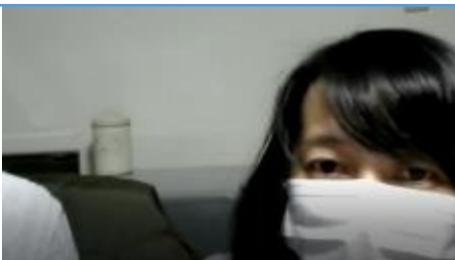
「認知症になっても大丈夫。みんなが助けるよ。ふかにん」

- 介護する人を精神面で支える人や、周囲のサポートも必要との意見がありました。

カラダラボ深川 櫻田さん



閉会挨拶で、北空知介護支援専門員連絡協議会事務局長 高橋 ゆみ さんから、いつか集合形式でお茶とお菓子を囲みながら研修できることを願いつつ、参加に対するお礼がありました



～グループワークから～

- ・苦勞して介護、なんとか入所できたのに遠くの親戚から何故入所させたという厳しい声があった。
- ・被害妄想がなかなか解消しない。優しくするのは分かるが実際には難しいという感情面でのジレンマがある。
- ・深川市では「ふかにん」というキャラクターを作って互助のPRをしている。
- ・夫婦の利用者の片方が浮気をしている誤解があり解決したが、認知症が進行し誤解が再燃。
- ・口腔ケアが大変。義歯は飲み込むリスクなど。
- ・認知症の患者さんは先生。教わることも沢山ある。
- ・親がしっかりしていた時とのギャップに戸惑いや受け入れられない気持ちが怒りに変化してしまうことがある
- ・コロナ禍でオンライン面会を実施しているが、初めて見る機械で上手にできない場合がある。
- ・コロナ禍の往来制限などがADLや認知機能の低下に影響がある
- ・介護医療関係の仕事をしていても、家族の時は客観的に判断できない場合があると思う。義理親なら少し冷静か。
- ・介護者が孤立しないよう地域社会で見守り相談できる窓口など、地域で支援できるシステムが必要
- ・カレーのスパイス（ターメリック）が認知症予防になるとのこと。インド人は認知症少ない。
- ・認知症かと思っていたらひどい難聴だった。
- ・認知症というとマイナスイメージ。周囲に知られたくないという気持ちが働く
- ・ユマニチュードというケア手法がある。見る、触るなどのコミュニケーションで相手を大切に思っていることを伝える。

～参加者の声から～

- ・集まって話がしたかったです。
- ・お疲れ様でした。早く顔を合わせて話ができるといいですね。
- ・現在のコロナ状況では会場に集まった研修は難しいため、今後もオンライン研修にしてほしいです。
- ・(今後聞いてみたい話) 歯科医や歯科衛生士の方などから口腔ケアが認知症や他の疾患などにどう影響を与えていくのかなど、帰宅願望のある方との関わりや対応、リハビリ関係、プチクレーマーとのコミュニケーション、終末について、等